

留学体験レポート

小松瑞歩

9月3日から12月24日まで新潟国際情報大学交換留学制度を利用して韓国へ留学した。この約四か月の留学期間、本場で生の韓国語を学びながら生活する中で、語学だけでなくいろんな文化や価値観を認め理解する力もついたという実感を持つことができた。日本の環境との違いに驚き不便に思ったり、韓国人やほかの留学生と自分たちの文化の違いを発見したり、毎日刺激的で、それらの経験は日本には分からなかったと思うので良い機会だった。大変な時もあったが楽しい思い出をたくさん作ることができた。そうすることができたのは、関わってくれた友達がいたからであると思う。これから韓国留学中にかかわった友達について詳しく述べたいと思う。

まず、慶熙大学の留学制度の特徴でもあるトウミという慶熙大学在学学生で韓国語を教えてくれるチューターである。私の場合は最初の三週間と残りの期間で別のトウミがついた。最初のトウミは同い年の女性で、日本語は全くできないが韓国の有名な場所を案内してくれたり一緒に食事をしたりした。私にとって初めての韓国人の友達で、韓国語だけの会話のため通じない、聞き取れないなど苦労はあった。しかしお互い理解し合えた時の喜びは大きく、プライベートの会話もするくらい距離が縮まり、楽しい時間を過ごすことができた。次のトウミは年上の男性で、日本語が良くできて勉強面でいろんなことを教えてもらった。試験前には学校やカフェに行って授業で理解できなかったことなどを教わり、疑問を解決して試験に臨めたためありがたかった。トウミと付き合う中で、知らなかった場所に連れて行ってもらったり、韓国語の練習をさせてもらったりして、韓国に親しむことができた。

次に、同じように留学してきたクラスメイトである。三か月のプログラムでは日本人が多いものの外国人が増え、会話は韓国語を使った。お互い公用語ではない言語で理解し合うのはすごいことだと感じた。一緒に勉強していくうちに仲も深まり授業も一層楽しくなった。SNSなどを通じて今も連絡を取り合って、勉強の原動力にもなっている。クラスメイトの日本人の友達とは韓国をよく観光した。勉強や生活などについて何でも話せる仲間になり、とても役立ち、支えになった。仲良くなった分別れはつらかったが、韓国での生活がより充実したものになったと思う。

最後に、新潟国際情報大学の友達である。この留学で一番多くの時間を過ごして、お互いのことをよく知ることができ、相談したときに参考になることが多く、いつも頼りになる存在であった。そもそも一緒に行く友達がいなかったら留学に参加していないかもしれないので、韓国でたくさんの経験ができたのも大学の友達のおかげだと思う。

他にもお世話になった友達はいるが、ここまでいろんな人と出会えたのはやはり留学に行くことができたからである。この機会を通して吸収したことが今後に生かすことができるよう、続けて努力していきたい。